

聞いてみよう!

子どもの教育

# 「お別れ」と「新生活」に向けて、 気持ちを整理するために しておくとおよいことを 教えてください。

海外子女教育振興財団  
教育アドバイザー

奥田 修也



<プロフィール> (おくだ しゅうや)  
ドイツのデュッセルドルフ日本人学校教諭、ベルギーのブラッセル日本人学校校長、中国の北京日本人学校校長として海外で多くの子どもたちや保護者に接した。2018年から海外子女教育振興財団の教育アドバイザーとして、渡航前・赴任中・帰国後の家族の教育に関するさまざまな相談を受けている。

海外でなくても、いままでの環境と別れて新生活に飛び込んでいくことはありますよね。私にもそういう経験が何回もありました。今回の記事は、そういう自分の経験をもとにして話を進めていきたいと思っています。まったくの私事になりますが、結婚してからいままで、もう十五回も引越しをしました。

これからも少なくともあと二回程度は引越す予定です。

移動を重ねたおかげで身の回りのおつき合いでする友達もそんなに増えたわけではなく、しかも、海外に行っていることも多かったのですが、親戚づき合いもけっこう疎遠になっています。まあ、それはそれとして、次にどんな新しく楽しいことが待っているのだろうかという気持ちでいつもいられるので、動く人生にもよいことはあるのです。

さて、現在の状況に別れを告げ、新しい生活に向かうとき、気持ちのうえでどんなことを大切にし、どのように過ごしていけばよいのかについてちょっと考えてみたいと思います。

## 新しい生活に向けて

ネットで調べてみても欲しい答えは見つけられず、モノの準備のことばかり書いてあります。

そんなことは誰かに聞かなくてもやらざるを得ないことで、順序よくこなしていくしかないですね。モノの準備ということに限っていえば、赴任や帰国が決まれば雑事でいっぱいになり、目の回る忙しさになることがあると思います。こういうときには、いまから始まる新生活でのポジティブな面を自分の中でクローズアップして楽しみながら準備をすることがいちばんだと思います。「やることリスト」をつくり、やれることからこなしていけば、そのリストが減っていくことによって不安や焦りが少なくなっていくものです。

ただ、ほんとうに聞きたいことは心の準備だと思っています。この点についてお子さんの心の問題を中心に考えてみます。

海外赴任が決まって慣れ親しんだ場所から暮らしたことのない場所にお子さんを含め家族みんなで行くとき、そして、海外での滞在が終わり日本に戻ると

き、どんなことを大切に考えればよいのでしょうか。

## 戸惑い・不安

慣れ親しんだ日本の生活から離れ、まだ住んだことのない海外に行くことになりましたが、海外の場合は日本国内の移動よりもつとイメージが湧かないことが多いと思います。

私も北京に赴任することが決まったとき、仕事のことはなんともなると思いましたが、まったく予想もしていなかった場所でもありましたし、生活についてはまったくイメージが湧かず、不安が大きくなつていきました。そのころ、YouTubeなどの動画を見ますと、中国のどこかで水道から赤黒い水が出ていたり、漬物がアップされていたり、歩いているような普通の道路に大量に置かれたりしている風景を見たりしました。そんなこと

がたび重なるとうい印象を持たず、途方に暮れることになったものなのです。

しかし、実際に北京に行ってみるとそのようなことはまったく目にせず、日本よりよっぽど進んだ社会状況に接することになり、滞在中ずっと快適に暮らしました。というわけで、これから渡航されるかたには次のように話しています。

「赴任地についてネガティブな情報をいま十個持っていたら、そのうち八個はその地に行けば解決する、あるいは『なーんだ、こんなことだったんだ、これなら大丈夫！』と解決する問題です。でも、残りの二個ぐらいはほんとうにたいへんな問題が起こります。しかし、それを家族で解決していくところに家族の強い絆きずなが生まれ、また海外生活の醍醐味だいごみといえるものがあるのです」

ただ、何も準備をしないで行くことも解決することがほとんど

とはいえ、実際に現地に行つてから出てくる細かい問題もたくさんあるわけです。ですから、なんとかなるだろうという淡い夢を見ないで、事前に現地の情報を得てよく考え、計画を立てて準備をすることはもちろん大切です。

それでは、本論に入ります。お子さんにとってお別れと新生活に向けての気持ちを整理するためにしておくといふことは何でしょう。

### 1 移動に向けてのお子さんの心の基盤づくりをしっかりとしておく

多くのお子さんにとっては、保護者の仕事の都合により突然海外に行く、あるいは突然日本に帰ることになる、そのような状況に強制的に追い込まれるわけです。そのような激変を受け止めることができるよう、心の状態をしっかりとさせておく必

要があると思います。そのためにすべきことは、家族で移動することに關して夫婦でよく話し合い、考えをすり合わせておくこと。その基礎としてお互いをふだんから尊重し、支え合うことで良好な関係を育んでおくことです。

次に、親としてお子さん自身のことをよく知っておく必要があると思います。お子さんが、移動することについてのどのような感情を持っているのか、お子さんが適応する力はどうなのかなど。

### 2 人間関係を修復し、すべての人々に対して肯定的なまどめをしておく

たとえば喧嘩けんかしたままになっている友達がいいたら、今引越すことになったことを告げ、いままでのことをしっかりと踏まえたいうえで、できるものなら仲直りする。また、海外に行く

場合なら、しばらく距離を隔てることになる、おじいちゃんおばあちゃんなどよい時間を過ごす。先生や近所の人などには、お世話になったお礼を伝えるなど、いままでの時間が素晴らしいものであったということをお子さん自身が感じられるとよいでしょう。

### 3 すべてのことに別れを告げる

人や場所、自分の持ち物などにきちんと別れを告げることも大切です。

お別れ会などを学校や近所の人がしてくれるという場合、大切なよい思い出になります。また、お別れ会を通していま別れの最中さなかにいるということをお子さんが意識するのも哀しみかなのなかで育まれる成長のきっかけになると思います。お世話になった人にお礼の手紙を渡しに行くのもよいでしょう。

思い出の場所を心にとどめて

おくために、家族みんなでそこに行き、写真を撮るなどというのよいと思います。帰国後そこに戻ることがないとすると、その場所も時間と共に過去になつていきます。それを甘い思い出と共に写真を見て懐かしむこともお子さんの成長にとつては大切なことです。

また、お子さん自身の持ち物ですが、大事にしているものを持つていくことも考えてよいでしょう。船便に乗らないものまで持つていくのは無理でしょうが、お子さんがそでの生活で大事にしていたもの、たとえば食器なども少しは荷物に入れて、お子さんにとつての継続した時間がただ切られるだけにならないようにしたいものです。そして、持つていけないものについては、いままで大事にしてきた時間を慈しみながら別れることもお子さんの成長にとつては大切でしょう。

このような行動を通して別れ

を意識し、新しい行き先に思いを馳せる、これで新しい場所への準備は完了です。さあ、新しい地へ出発!

さて最後に、これから海外に行かれるご家族や日本に戻つてこられるご家族に向けて、私がいままで受けてきた教育相談の内容から感じたことを交え、ちよつと変わったエールを書いておきたいと思います。

#### お子さんの未来に思いを馳せてほしい

海外に出ることになったご家庭の多くは、お子さんにせつかく海外に行くのだからという考えで、英語力の向上を求める傾向が過去はたいへん強かったのです。しかし、最近は少し違う傾向も見られます。

それは英語力だけではなく、海外にある学校ならではの特色ある学習やそれによって培われた学習力、そして困難に適応す

る力、そのような力を備えることをお子さんの未来に思い描いているご家族が増えてきたということです。素晴らしいですね。

私はそこにもう一つプラスしたいと思います。それは、「倫理感のあるリーダーになつてほしい」ということです。海外で育つた経験のあるお子さんは今後の日本や世界においてさまざまな分野でリーダーになつていく可能性が高いと思います。そのような子どもたちには、世の中にあふれている雑多な情報のなかから正しいことを賢明に選び取り、そのような情報をもとに「善き心」をベースにして自分の考えを組み立てていってほしい。その過程を通して日本や世界の将来を支えるひとりになつていってほしいと心から願っています。

海外子女の前途は、これからも洋々です!